

学校と地域が協働する ESD for SDGs

山あいの“小さな小学校”の
世界につながる“大きな挑戦”

飯田市立上村小学校

南アルプス

ジオパーク・ユネスコエコパーク

南アルプスジオパーク(長野県・山梨県・静岡県境)

2008年12月 日本ジオパークに認定

3000m級の山脈、雄大な自然

盛り上がる山々、削られる深い谷

日本列島を貫く巨大な断層 中央構造線

遠い海からやってきた南アルプスを造る材料

高い山深い谷に暮らす多様な生き物

山あいで培われた固有の文化と人々の暮らし

南アルプスユネスコエコパーク



核心区

南アルプスを代表する3,000m級の山々の山岳景観や原生的な自然環境、貴重な動植物の生息地を有し、国立公園にも指定されるなど法的にも厳しく保護されている地域。

緩衝地域

核心区の周囲、又は隣接する地域。適切な保護、管理をしながら環境教育などに利用されている。

移行地域

自然環境と調和した農業や歴史、文化を生かしたエコツーリズムなどが行なわれている地域。

2014年ユネスコエコパークに登録

遠山郷ってどんなところ



南アルプスと伊那山地を二分する中央構造線が通る谷に沿って広がる山深い谷間の地域。

古くから静岡にある秋葉神社への参拝の街道が開けていた。

二つの山脈に挟まれ、谷の南北を峠によってさえぎられていることから、古くより隔絶の地域とされてきた。

このため、この地には風土に根差した独自の文化が色濃く残っている。

国指定重要無形民俗文化財・遠山の霜月祭り

上村・南信濃の各神社で湯立神楽の古い形式が残り、社殿の中央に設えた釜の上には神座が飾られ、湯を煮えたぎらせて神々に捧げます。煮えたぎる湯を素手ではねかけ、一年の邪悪を払い新しい魂をもらい新たな年を迎える祭りです。





上村小学校は、この南アルプスのふもとと遠山郷と呼ばれる、深い谷あいにあります。

エコパークの緩衝地域にあるしらびそ高原や日本のチロルと呼ばれる下栗の里で自然体験学習を行ったり、地域の方から教えてもらいながら、そば作りや下栗いもづくり、茶摘み体験をしたり、地域に伝わる伝統行事「霜月祭り」について調べたり参加したりしています。



上村小学校の紹介



平成17年(2005年)10月

上村と飯田市が合併し、飯田市立上村小学校となる。

平成29年(2017年)12月

児童減少に伴い、地域の方の熱い要望によって、飯田市教育委員会より、小規模特認校に指定され、飯田市在住の児童が通えるようになる。

平成30年(2018年)4月

小規模特認校に指定されて初めての入学生、転入生が加わり9名でスタート

令和2年(2020年)現在 児童数は19名 職員数11名

H30 小規模特認校開始 学校の魅力は何？

複式指導・ICT遠隔・信州大学との連携・合唱・上村の自然、文化、人
ソサエティ5.0とヒューマン5.0 どちらも生かす学校づくり、人づくり



山あいの“小さな小学校”の世界につながる“大きな挑戦”

2020 上村小学校

全員が「主人公」一人一人が「未来の創り手」になるために、自己の可能性に挑戦します！

上村小学校では、教科学習、総合的な学習の時間、学校行事などで伝統的に実施されてきた、地域の素材や地域課題に題材を求めた学習や活動を、ESDの視点で捉え直し、「住み続けられるまちづくり」のために、学校教育ができることが何かを明確にし、それを4つの窓口から教育課程全体に反映させる実践に積極的に取り組んでいます。「上村ブランド」(KB) スタート！

学力向上



●独自の学習スタイルの実践

算数の複式指導 (KB1) に取り組む始めて6年になる。国語、理科も昨年から研究を始めている。

今年度は3・4年国語を開始。ICTモデル校として、達山中、和田小、天龍小と遠隔合同授業 (KB2) を行っている。



和田小、天龍小との集合学習は3年目、各学年10時間前後を計画して実施している。R 元年度の集合学習は延べ6.5時間実施。そのうち11時間が遠隔合同授業である。

●「個別の指導計画」の積み上げと、個に応じた学習の重視

学校評価 (保護者) AB 評価の数値から目標設定

「主体的に学習」 R2 目標 A: 36→50% B: 18→40%

「学習姿勢」 R2 目標 A: 27→40% B: 36→50%

「家庭学習習慣」 R2 目標 A: 27→40% B: 18→40%

「確かな学力」 R2 目標 A: 27→40% B: 27→40%

家庭学習にどう取り組ませるのか？今年度の大きな課題である。AB 評価最低 80%以上を。

【全国学力学習状況調査】 R2 目標: 全て O

国語 R1: 63.8

算数 R1: 66.6

- 「なかよしドリル」の継続と発展
- 小中一貫した自主学習の習慣化

人間関係づくり



●歌声でつながる人間関係

大きな舞台上で歌うことで、自信をもって表現する力が伸びている。歌のバトンをつな GO! (KB4)

今年度は学期に1回の施設訪問を実施予定

●子どもも才で自己表現力のアップ

今年で4年目、大人気の取り組み



11/8 しゃくなげ祭で発表

●あいさつと返事の充実

学校評価 (保護者) 「あいさつ・言葉遣い・相手意識をもった言動はどうか」 R2 目標 A: 27→40% B: 45→50%

●特認校制度を使った転入学生の増加

人間関係づくりの困難さが予想されるため、学級づくりが大切になる。

H30: 市街地2 上村9 計11人

R1: 市街地6 上村9 計15人

R2: 市街地9 上村10 計19人



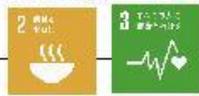
学校評価 (児童) 「毎日楽しく学校に来ることができた」 R2 目標 A: 64→80% B: 36→20%

(児童) 「相手を思いやる言葉遣いや行動」 R2 目標 A: 57→70% B: 43→30%

●信州大学とのプログラミング交流 (KB3)

飯田東中学校との交流 まちづくり りんご並木

体力向上



●体力テストの結果分析に基づく重点強化運動の実施

個人差が大きい。全体的に記録が低い項目は「ボール投げ」。授業の中で関連した動きを入れたり、個人に対応した種目に取り組んだりする上村サーキットで体力UP!

【体力テスト判定】

A判定: 2人 B判定: 4人 C判定: 6人 D判定: 1人 E判定: 1人。



●自己目標達成に向けた上っこマラソン

2時間目終了後の業間に、自分で設定した目標に向かって走る。

10/20 マラソン大会

●児童会企画による学年の枠を超えた集団遊び

10/10 飯伊陸上記録会は運動会前日のため今年度は不参加。

4/25 やまびこマーチは今年度中止。



ふるさと愛



●ESD for SDGs の推進

ユネスコスクール登録

上村の自然・文化・人とのつながりを大切にしながら、世界が目標にしている SDGs (持続可能な開発目標) に取り組む。(KB5)

霜月祭プロジェクトをメインに HP で活動を発信する。推奨・そばの栽培・小正月行事・川づくりしらび子高原を舞台にしたまちづくり学習の実施

●かみむらっこ応援団と連携した学校運営

定期的な読み聞かせ行事への参加、放課後見守り事業、地域講師を積極的に活用。

ESD for SDGsによる連携の強化。

●保小中12年間の連携・一貫教育の推進



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ソサエティー5・0とヒューマン5・0、どちらも生かす魅力的な学校づくり、魅力的な人づくりを実践する上村小学校

これが

5つの上村ブランド

【上村ブランド1】 複式指導

これまでの実践経緯

- H27 静岡県浜松市立熊小学校
- H28 静岡県浜松市立熊小学校
- H29 和歌山大学教育学部附属小学校
- H30 和歌山大学教育学部附属小学校
熊本県山江小中 京都府笠取小



- R1 全国へき地教育研究大会授業公開 愛知県東浦町立緒川小学校
- R2 広島県広島大学附属東雲小学校

- 学習ガイドに従って子どもたち自身が「一人学び」「学び合い」を進めることで、主体的で対話的な深い学びを実現。
- 教師は直接指導と間接指導を行うが、基本的には見守り支援により子どもの学びをサポートする。教師の出は必要最低限、それを可能にするのが詳細な教材研究。
- 異学年の子どもたちが一緒に学ぶことで、学び方を学ぶ姿勢を身につけると共に、道徳性を育成。

山あいの“小さな小学校”の 世界につながる“大きな挑戦”

2020 上村小学校

ソサエティ5.0とヒューマン5.0 どちらも生かす**魅力的な学校づくり・魅力的な人づくり**を実践する。

【上村ブランド】とは実践の積み重ねから作り上げた**独自の活動で、個別最適化された未来の教育の姿を具現する。**

【上村ブランド5】

ユネスコスクール ESD for SDGs

これまでの実践経緯

- H29 飯田市より ESD 実践推進校に指定
- H30 ユネスコスクール登録申請 SDGs の視点で活動開始
- R1 ユネスコスクールチャレンジ期間 ESD for SDGs 地域連携開始
霧月祭プロジェクト開始（総合的な学習の時間）
- R2 ユネスコスクール登録

- 地域の素材を生かした弾力的な教育課程の編成。数々の自然体験で心豊かな人づくりを実践する。持続可能な上村を目指し、学習を発展。
- 学習内容は子どもたち自身が作成した HP で世界に向けて発信中。グローバル人材の育成。



【上村ブランド2】 遠隔合同授業

これまでの実践経緯

- H29 飯田市 ICT モデル校 和田小、遠山中と遠隔合同学習の実施
- H30 長野県中山間地リーディング校 飯田市 ICT モデル校
和田小、天龍小との遠隔合同学習、集合学習の実施
- R1 長野県中山間地リーディング校 飯田市 ICT モデル校
全国へき地教育研究大会授業公開（和田小、天龍小）
飯水地区小学校とピリオパトル、遠隔合同授業の実施

- 近隣の学校が集まって行う集合学習が不可能なとき、遠隔システムを使って学校間を結ぶことで、多面的・多角的な学びを実現。小規模校だけでは味わえない楽しさを実感。
- 違う場所にいながら同じ空間での学習を演出。共に進める教材研究の充実。
- 電子黒板やタブレットなどの ICT 機器を子ども自身が自由に操作し、学習の中で効果的に活用。



【上村ブランド3】

信州大学と連携したプログラミング学習

これまでの実践経緯

- H28 タブレットを使って
- H29 大学生による授業参観
- H30 micro-bit scratch Key
タッチを使って
- R1 全国へき地教育研究大会授業公開 ロボホンを使って



- 「Try and Error」タブレットを一人一人が操作しながら、自分の課題を納得のいくまで追究。論理的に思考、楽しさ満載のプログラミング。
- 大学と連携することで、最先端機器を使いながら最高の学習環境を用意。小規模校だからこそできる特典。
- 大学生との交流も魅力の一つ。遠隔で画面の向こうから、もちろん直接交流も。多くの人とのかかわりでコミュニケーション力も UP!

【上村ブランド4】 合唱

これまでの実践経緯

- H30 あづみの早春賦音楽祭出場（国営アルプスあづみの公園）
小さな音楽会全国大会出場（東京日経ホール）
波田少年少女合唱団定期演奏会（塩尻レザンホール）
- R1 下伊那教育会総集會 研究発表の中で発表（飯田文化会館）
全国へき地教育研究大会アトラクション（上村小学校）
- 最高の表現力と独自のパフォーマンスが魅力。数々の来客の前で、大きな舞台の上での経験を重ね、聴衆を魅了。ミュージカルにも挑戦する個性派集団。



上村ブランド5 ESD for SDGs

【これまでの実践経緯】

- H29 飯田市よりESD実践推進校に指定
- H30 ユネスコスクール登録申請 SDGsの視点で活動開始
- R1 ユネスコスクールチャレンジ期間 ESD for SDGs地域連携開始
霜月祭プロジェクト開始(総合的な学習の時間)
- R2 ユネスコスクール登録申請中

○地域の素材を生かした弾力的な教育課程の編成。数々の自然体験で心豊かな人づくりを実践する。持続可能な上村を目指し、学習を発展。

○学習内容は子どもたち自身が作成したHPで世界に向けて発信中。グローバル人材の育成。



世界の取り組みと自分たちの活動をつなげる

こんな場面であんなところでSDGs

☆行事の時にSDGs ☆掲示物にもSDGs ☆はってみようよSDGs

～上村地区の自然・文化・人とのつながりを大切にする

フューマン5.0に取り組んでいます～



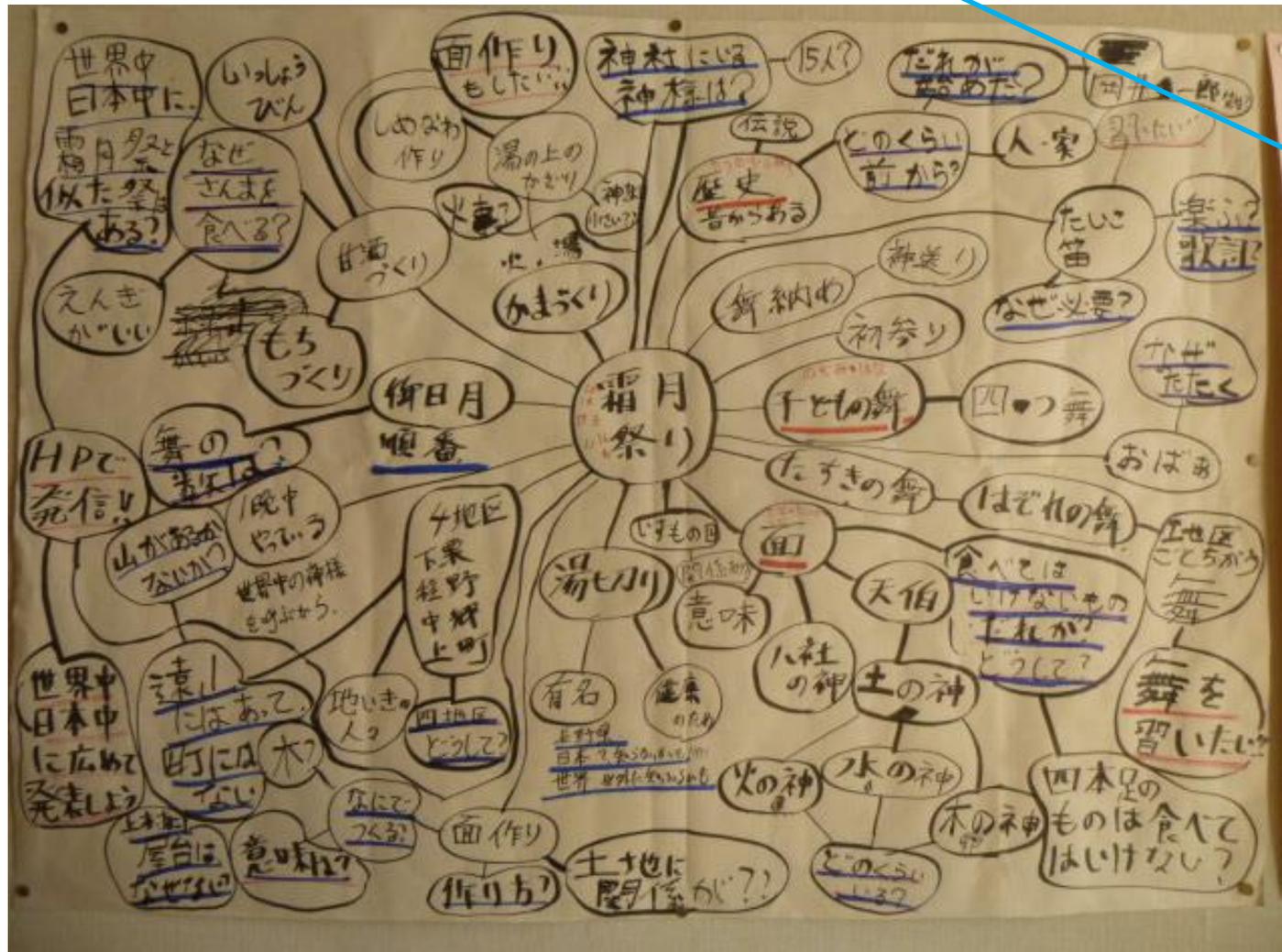


「みなさんは、海で大量のプラスチックごみが問題になっていることを知っていますか。川をきれいにするのが海をきれいにするにつながりまふ。上村の川はとてもきれいです。これからもきれいな川を守っていきたくし、そういう願いをもつて稚魚を放流しましよふ」

ふるさとの川づくり事業での児童会長の話

「霜月祭プロジェクト」総合的な学習の時間

上村のすべてが凝縮されている霜月祭について聞き、調べ、体験し、まとめて、HPを作って世界に発信する



世界で活躍している東京のある会社と連携して、HPの作り方を遠隔で子どもたちに指導してもらった

WEBサイト作り

はじめに 霜月祭 (しもつきまつり) とは? 歴史 (れきし) 面 (おもて) 舞 (まい) おといあわせ さあ上村へ!



今年度のESD活動構想

上村の霜月祭と世界に発信しよう

柱4本、
3つほど

霜月祭コンパ
(総合)

まぶくり学習(18)
・美神
(飯田東中(収穫) 評価)

・市役所 飯田病院
(合唱)

HPで発信
SAKURAS
池上

上村のくらし
(いたけ
そば)

自然の美に
あまご放流
ボランティア活動
上村の人のこころ
大運動会
しゃくばげ祭
上村まぶくり委員会と
連携

ユネスコスクール

霜月祭

ESD
コンソーシアム
活動評価

ESD
SDGs
学習会

職員研修
麻生大 小玉

夏の職員研修
麻生大 小玉 丁
信大 渡辺 丁

冬の職員研修
横苗体験 など

ユネスコパーク
ユネスコパーク

しらびと高原
開山祭(18)
・学習会(環境)
・まぶくり(人・文化)
・体験(自然) 評価

キャンプ(1泊2日)
・坂本先生 阿部氏 不栗ガイト
(ルーター) (月星)
・ボランティア活動
振興センターと連携 美博(研修)
飯田市 移住定住 評価
遠山郷未来プロジェクト

交流
世界 国内

環境学習
市環境センター
協賛

KCF
(みどりの少年団)

今年度のESD活動構想

しらびそ高原開山祭

開山祭参加で歌披露

散策探検でジオパーク学習

青崩れ峠遠足

トンネル掘削現場見学 中央構造線学習

しらびそ高原全校親子キャンプ

1泊2日のキャンプ

親子でジオパークエコパークについて

学習したり体験活動を行う

これらを行う予定だったのだが

ESD学習の母体

KGCかみっこグリーンクラブ

(みどりの少年団)



栽培活動

15 陸の豊かさも
守ろう



川に親しむ

6 安全な水とトイレ
を世界中に



14 海の豊かさを
守ろう



15 陸の豊かさも
守ろう



魚が住み続けられるきれいな川をつかっていきたい。
川を汚さないようにみんなががんばるから、大きく元
気に育ててほしい。
魚が大きくなって子どもをいっぱい産んでほしい。

KGC自然体験

まるごとジオパーク・エコパーク中央構造線の神秘

ねらい

ESD for SDGsの活動として、学校、保護者、地域が一緒になって、南アルプスジオパークエコパークに指定されている遠山郷の自然や環境、人々の生活について、学んだり体験したりして、理解を深める。



目的

- (1)上村の美しく豊かな自然に親しもう。
- (2)ジオパーク・エコパークに指定されているこの地域の自然や人々の生活を地域の人から学び、その良さや課題となることを世界に発信しよう。
- (3)地域の方から教えてもらったり、一緒に活動したりすることを通して、地域の人と交流を深めよう。

【子どもたちの目標】

- (1)自然と触れ合いながら、知識を深めていこう
- (2)楽しみながら自然を学ぼう

KGC自然体験に向けての話し合い



自然体験を行うにあたり、子どもたちにこの活動の目的とSDGsとの関連を考えさせた。

そのうえで、自分たちの目標を考えたり、やりたい活動を出し合ったりして、活動内容を決めていった

ジオパーク学習 中央構造線露頭見学

地域講師 山口雄大
さんから、中央構造
線についての説明を
聞き、露頭の観察を
行う



【子どもたちの感想】

- ・中央構造線で日本が動いたことや、伊豆半島が近づいてぶつかったことがびっくりした。
- ・中央構造線で、石の種類が違っていることに驚いた。黒い部分や青い部分があった。
- ・見たことのない石やきれいな石がいっぱいあった。



下栗の里 見学とガイド学習

下栗の里案内人の野牧さん、胡桃沢さんから下栗の歴史や地形、霜月まつりのお話を聞きながら見学



【子どもたちの感想】

- ・ビューポイントがきれいだった。
- ・大昔から人が住んでいたことが分かった
- ・野牧さんの「野牧」は、昔は「牧野」だった。
- ・霜月祭りとのつながりがわかった。
- ・拾五社大明神は、面の種類ややり方など、他とちがうこと
- ・拾五社大明神の家紋がわかった。



下栗で自然と遊ぶ

地域の「しぜんと遊ぼうプロジェクト」の皆さんが関わってくださり、下栗芋ほり体験、自然散策、自然のものを使った工作などの体験を行った。



【子どもたちの感想】

- ・下栗いものほり方で、斜面で落ちない方法がわかった。
- ・下栗芋がおいしかった。
- ・山たんけんで、見つけた虫や花を図鑑で調べられてわかった。
- ・いつも行けないところに連れてってもらえて楽しかった。
- ・道具の使い方を教えてもらって、作りたいものが作れてうれしかった。
- ・手作りのブランコが楽しかった。



自然体験を振り返って



- ・自然とふれあって、学ぶことができた。・地域の人から教えてもらった。
- ・楽しみながら、虫や植物など自然にふれあうことができた。
- ・体験は良いので、続けていきたい。・川でもやりたい。
- ・自分から元気にあいさつができた ・協力できた。
- ・ゴミを持ち帰った。
- ・みんなと仲良く遊ぶことができた。
- ・こんな生物とふれあうことがなかったので、思い出に残った。

この活動から 上村のためにみんなが できることは何だろう？

○自然とのかかわり □人とのかかわり

○ゴミをひろう。ゴミを持ち帰る。

→ぼくたちだけじゃなくて、あとの人にも、この素晴らしい景色をみてほしい。



○植物を植える

→いろいろな植物を植えて、四季折々のきれいな景色にしていきたい。そうすると、いろいろな虫や鳥も増えてくる。

□あいさつ

□地域の人との交流会

□Webサイトでの紹介



KGC自然体験成果と課題

1 成果

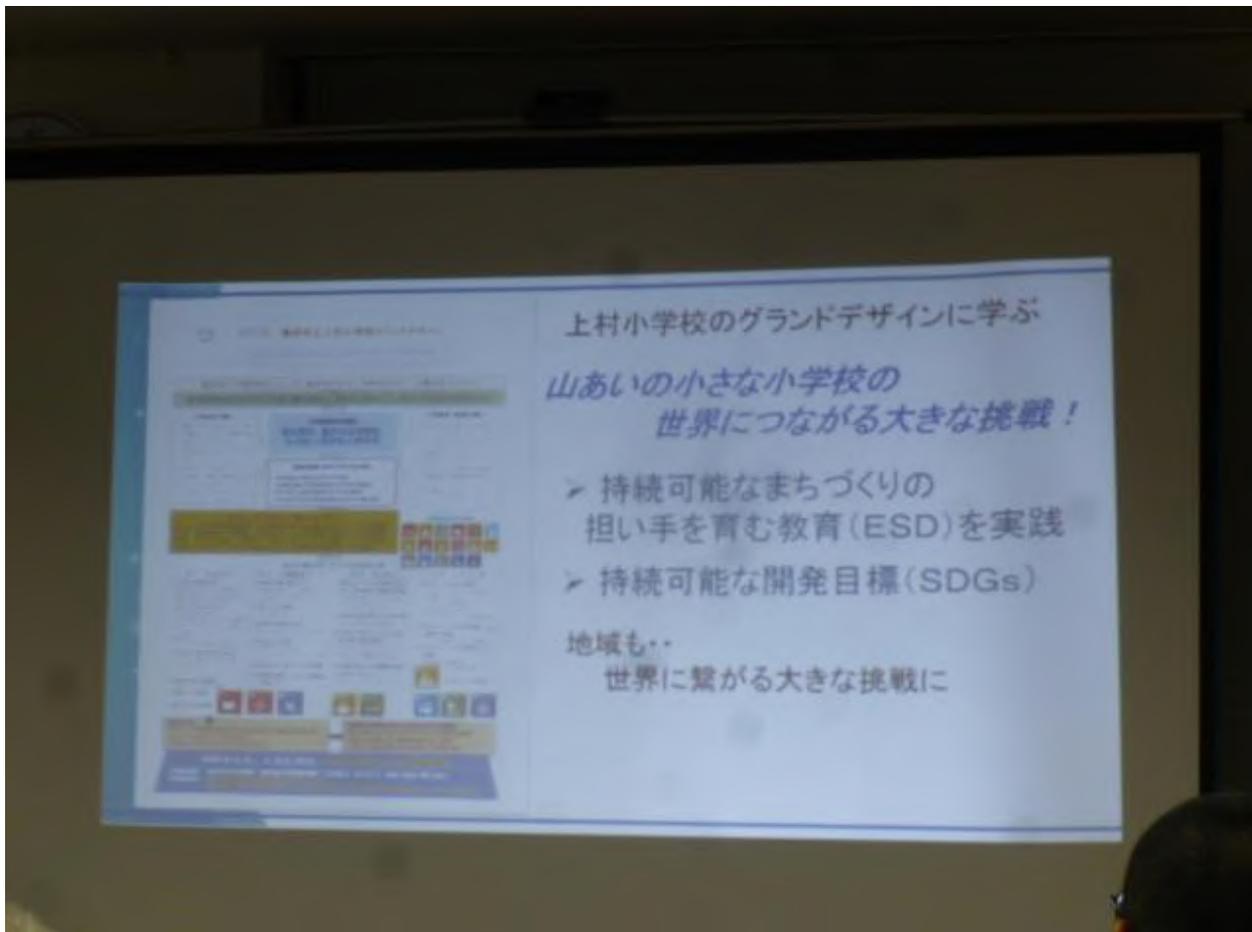
- ・コロナ禍の影響で、計画が縮小変更されてしまった。その中でできる内容を模索し、新しい活動の第一歩として実施できてよかった。
- ・子どもの願いを大切にし、子どもたち同士で十分話し合った内容をもとに、学校、保護者、地域が連携してこの自然体験を実施することができた。
- ・子どもたちには、ESD for SDGsが位置づいてきており、この活動がSDGsの何番につながっているか考えて目標を立てていた。持続可能な上村・遠山郷のために自分たちに何ができるかを考える素地ができている。
- ・地域の方に多方面からの協力をいただき、学校だけではできない活動に取り組むことができた。
- ・ESD for SDGsの取り組みを子ども、学校、保護者、地域が大切な活動として捉え、今後も継続して取り組んでいく共通の認識ができた。

2 課題

- ・今回、初めての活動で子どもたちにとってみると、準備をしてもらい活動させてもらった感が強かったので、振り返りにあったように自分たちで何ができるかを考え、来年度からの活動を考えていく。
- ・規模を縮小したため、保護者の参加をPTA役員のみ制限したので、保護者に関わってもらうことがほとんどできなかった。PTAの大切な活動として位置づけ、保護者にも関心をもってかかわってもらえるように準備していく。

この地域があるから学校・子どもたちが育っている

来年度もユネスコエコパーク・ジオパークでの学習会、ボランティア活動、キャンプを計画。飯田市が進める「**遠山未来プロジェクト**」につなげ、近隣の和田小学校、遠山中中学校とも連携した取り組みに。





ご清聴ありがとうございました